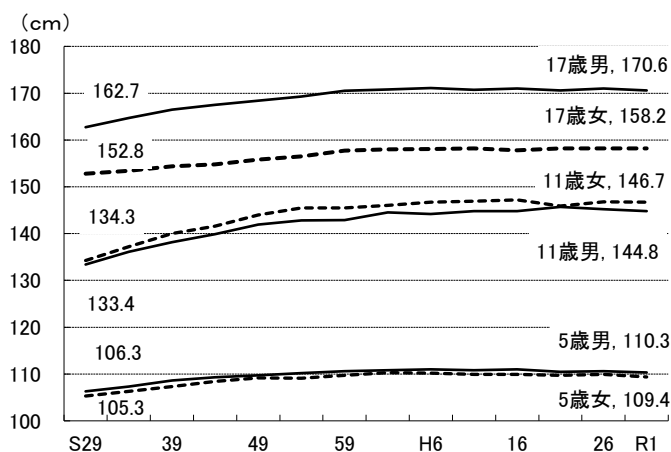


Ⅱ 調査結果の概要

1 身長

身長の平均値の推移は、おおむね横ばい傾向である。

令和元年度の身長を親の世代（30年前の平成元年度の数値）と比較すると、男子では半数以上の年齢で高く、女子では約半数の年齢で高くなっている。最も差がある年齢は、男子では10歳で1.1cm高く、女子では5歳で0.9cm低くなっている。

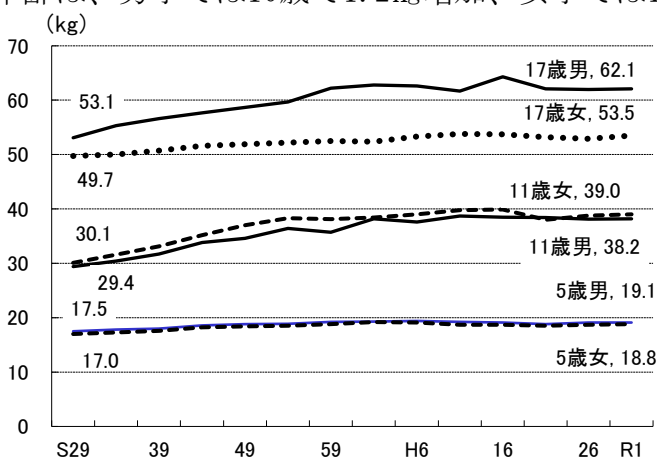


区分		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	令和元年度	110.3	116.9	122.6	128.4	133.2	139.5	144.8	152.5	159.5	165.2	168.3	170.2	170.6
	平成元年度	-0.5	+0.3	+0.2	+0.5	-0.5	+1.1	+0.3	+1.0	+0.6	+0.3	+0.5	+0.1	-0.2
女子	令和元年度	109.4	115.6	121.4	127.3	133.7	140.7	146.7	152.1	154.8	156.6	157.6	157.7	158.2
	平成元年度	-0.9	-0.5	-0.4	-0.4	+0.5	+0.7	+0.7	+0.6	-0.5	+0.1	+0.3	-0.4	+0.2

2 体重

体重の平均値の推移は、平成5年度から平成20年度あたりをピークに、その後は減少もしくは横ばい傾向となっている。

令和元年度の体重を親の世代（30年前の平成元年度の数値）と比較すると、男子では半数以上の年齢で増加しているが、女子では半数以上の年齢で減少している。最も差がある年齢は、男子では10歳で1.2kg増加、女子では17歳で1.1kg増加している。



区分		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	令和元年度	19.1	21.6	24.2	27.2	30.7	34.8	38.2	43.7	48.7	53.8	58.9	60.9	62.1
	平成元年度	-0.2	+0.2	+0.2	+0.4	+0.6	+1.2	±0.0	+0.1	+0.1	-0.6	+0.1	-0.1	-0.7
女子	令和元年度	18.8	20.8	23.5	26.5	30.4	34.4	39.0	44.3	47.0	50.2	51.9	52.6	53.5
	平成元年度	-0.4	-0.2	-0.1	-0.2	+0.9	+0.4	+0.6	+0.7	-0.2	-0.3	-0.6	-0.4	+1.1

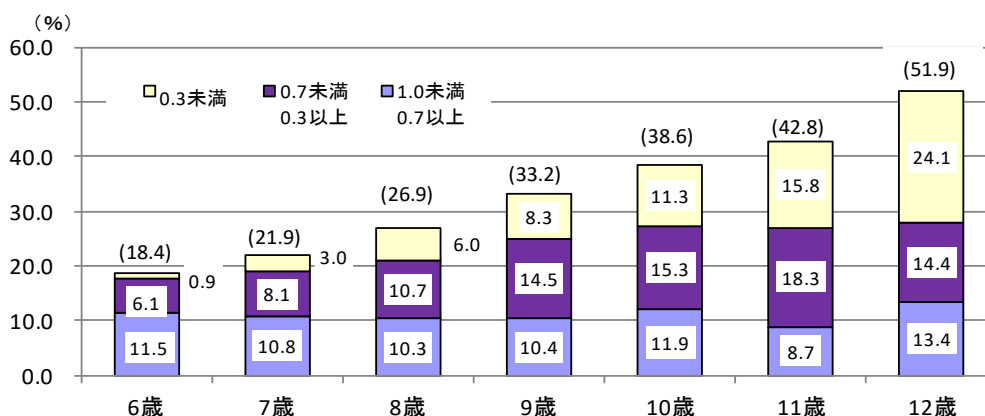
3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は男子では9歳、女子では12歳が最も高く、痩身傾向児の出現率は男子では11歳、女子では12歳が最も高くなっている。

全国と比較すると、男子の10歳、11歳における痩身傾向児の出現率が高い。

4 主な疾病・異常被患率

裸眼視力1.0未満の者の割合は、6歳（小学校1年生）では18.4%、9歳（小学校4年生）では33.2%、11歳（小学校6年生）では42.8%と、年齢が上がるともに増加し、12歳（中学校1年生）では、51.9%と半数を超えた。



むし歯（処置完了者を含む）の者の割合は、幼稚園28.2%、小学校40.0%、中学校28.0%、高等学校38.7%で、前年度と比較して、幼稚園、中学校、高等学校では減少したが、小学校で増加した。

アトピー性皮膚炎の者の割合は、前年度と比較して、小学校、高等学校では減少したが、幼稚園、中学校では増加した。

主な疾病・異常等の被患率

区分		裸眼視力 1.0未満	むし歯(う 歯)	アトピー性 皮膚炎	ぜん息
幼稚園	R1	X	28.2	1.7	0.8
	(前年度)	(23.1)	(28.8)	(1.4)	(0.7)
小学校	R1	30.5	40.0	2.3	2.9
	(前年度)	(30.7)	(37.9)	(2.4)	(2.6)
中学校	R1	55.7	28.0	2.1	2.6
	(前年度)	(X)	(31.0)	(1.6)	(2.5)
高等学校	R1	X	38.7	1.3	1.1
	(前年度)	(X)	(38.9)	(1.7)	(1.3)

裸眼視力については、幼稚園、高等学校では受検者数が少ないため統計数値の公表なし